

# 阪高スピリット

―バトンをつなぎ、さらに先に進もう―



執行役員 金治英貞

## 港大橋 50 周年

今年は港大橋開通 50 周年である。着工が万博に沸く 1970 年 7 月 15 日、そして開通が 1974 年 7 月 15 日である。ちなみに 7 月 15 日は 1868 年の大阪港開港を記念した日である。驚くことに先輩方は、吊橋以外で実質世界最長の橋を、設計、そして基礎工事も含めて 4 年で完成させたのだ。港大橋（1973 年 7 月 14 日命名）は当時南港連絡橋と称され、起工 2 ヶ月前に発足した南港連絡橋建設部には阪神高速道路公団の精鋭が集められたと聞く。中でも語り継がれるのが、設計から施工まで一貫して全身全霊を注いだとされる総指揮者の南俊次理事、そして実質のプロジェクトリーダーの笹戸松二部長である。

## 先輩方の偉業

工事誌にはとても刺激的な文が残されている。南氏は「未開拓の分野が多く、国際的にも最高の技術力を発揮して漸く成功した・・・かくして完成したこの橋は、1970 年代におけるわが国の民族的エネルギーを結集した偉大な技術成果の一つである・・・」と記し、笹戸氏は「丸 4 年の短期間に、規模、材料、工法等、新技術の開発を行い、わが国における長大橋梁の先兵として数多くの未知の問題点を解決して完成した・・・本橋の真の評価は長年月にわたって受けねばならぬ自然条件等の試練に耐え、その機能を果たし終えたときに、はじめて価値づけることができる・・・」と記している。今 50 年が経過し、それを見事に証明していることにこれらの言葉に重みを感じる。

## あつい思い

港大橋建設のビデオが残されている。日本の長大橋の幕開けとなる前人未到の橋の設計、施工に関して、産官学の総力を結集して物事の本質を追求する多くの姿が各所にみられ心打たれる。なかでも、カナダのケベック橋建設で多くの死傷者が出た、同様の中央径間の吊り上げ一括架設が無事完了した際の関係者の抱き合う姿、そして、笹戸氏の涙ぐむ姿は感動的である。若手技術者として仕えた江見晋氏は、「氏は、本人が納得しない限り決して妥協しない強い意志を貫かれた真の技術者であり、この姿勢が本橋の優れた成果を生んだ要因であると言える。」と評している。

## 阪高スピリットの継承・進化

今、阪神高速グループは大小様々の事業に恵まれる環境、チャンスにある。「造る」だけでなく「守る」、

「使う」、「活かす」事業、さらにサステナブルな社会実現に向け、益々の切磋琢磨が必要とされる。今一度、先輩方のスピリットを共有し、そのバトンをしっかりと引継ぎ、これら難事業に「技術のチカラ」を発揮し、さらに『先進の道路サービスへ』に挑戦し続けたいものである。課題形成を行い、そこに情熱を注ぎ、その情熱を組織のミッションに据え、イノベーションを起こす「**Question-Passion-Mission-Innovation**」、先輩方の取り組みにも通じるものがある。